

◆◆関東地方整備局の動き◆◆

1. 第8回出展技術発表会を開催致します ～最新の展示技術を御紹介～

関東技術事務所

出展技術発表会は、建設技術者の方々を主な対象に、公共工事に係る技術者の知識習得及び技術の普及を図ることを目的として、第15期建設技術展示館の展示技術を、出展者自らが発表するものです。

■日時：

【1日目】令和4年5月11日(水) 13時00分～16時30分(受付12時15分～)

【2日目】令和4年5月12日(木) 10時30分～15時20分(受付9時45分～)

■会場・定員：

(1) 関東技術事務所 建設技術展示館 各日80名
(千葉県松戸市五香西6-12-1)

(2) オンライン配信 各日150名 (MicrosoftTeamsによる配信)

※会場(1)関東技術事務所建設技術展示館と同時にオンライン配信(会場(2))を予定。

※感染症の拡大状況等によりオンライン開催に変更する場合があります。

会場(1)(2)の各日合計定員：230名 ※定員になり次第×切ります

■内容：出展技術発表

テーマ：「Society5.0を実現する新技術」、

「防災・減災・国土強靱化、インフラ・寿命化技術」

発表者：12者(講演を除く) ※詳細は本文資料(PDF)別添参照

■聴講費：無料

※本出展技術発表会は(公社)土木学会 GPD プログラム及び(一社)全国土木施工管理技士会 連合会 CPDS プログラムの認定を受ける予定です。(※但し、オンライン配信(会場(2))による聴講及びオンライン開催の場合は、CPDS プログラムの認定は受けられません。)

◎感染症の拡大状況等によっては、オンライン開催に変更する場合がございます。

変更の際には、建設技術展示館ホームページにてお知らせ致します。

建設技術展示館ホームページ：<http://www.kense-te.jp/>

◎会場にてご聴講される方は、当日、ご自宅での検温と、会場受付での検温及び手指消毒にご協力をお願い致します。発熱のある方や体調不良の方は入場をお断りさせていただきます。

◎会場(1)での取材は事前予約なしで取材可能です。当日、会場受付にてお申し出ください。

◎会場(2)及びオンライン開催となった場合の取材は、事前ご連絡いただきますようお願い致します。

この記事や、この記事の添付資料を以下の関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

https://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kangi_00000136.html

2. 大黒ふ頭P3・P4岸壁(水深7.5メートル、延長260メートル)及び荷さばき地の再整備が完了し、P3岸壁(水深12メートル、延長290メートル)として、4月15日から供用を開始します!
これにより、隣接するT3-T8岸壁と合わせると、大型の自動車専用船が5隻同時に着岸可能な我が国最大級の延長1,400メートルの連続バースとなります!

京浜港湾事務所
横浜市港湾局

横浜港の主要輸出品目は完成自動車であり、大黒ふ頭は「東日本最大の自動車取扱拠点」です。令和4年4月1日には、横浜港埠頭株式会社により大黒ふ頭C4コンテナターミナルの自動車ターミナルへの転換が完了したところです。

国土交通省と横浜市では、平成27年度から自動車専用船の大型化や着岸隻数の増加に対応するため、大黒ふ頭の横浜航路側のP3・P4岸壁の水深を7.5メートルから12メートルに深くし、延長を260メートルから290メートルに延伸する改良工事や、荷さばき地の拡張等を進めてきました。

この度、再整備が完了し、P3岸壁として4月15日から供用を開始します。隣接するT3～T8岸壁と合わせると、全長200メートル級の大型の自動車専用船が5隻同時に着岸可能な我が国最大級の延長1,400メートルの連続バースとなります。

これらにより、大黒ふ頭は大型の自動車専用船が11隻同時着岸可能な日本最大級の自動車取扱拠点となり、横浜港の自動車取扱機能の更なる強化が実現します。

この記事や、この記事の添付資料を以下の関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

https://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/pa_00000378.html

3. ICT施工の中小建設業への普及拡大に向け、全国で初めて実践的な手引きを策定しました。

- ・小規模工事 ICT 施工活用の手引き(案)
- ・3次元設計データ作成の内製化実現のための手引き(案)

関東地方整備局
企画部

○ICT施工普及拡大の課題として、中小建設業へのICT普及拡大が示されています。

○関東地方整備局では、地域に即した小規模工事におけるICT活用するための取組(埼玉県地域建設業ICT推進検討協議会等)を行ってきて、本手引きを策定・公表することにしました。

○本手引きについては、関東地方整備局ホームページ上に掲載しております。

【ICT施工】https://www.ktr.mlit.go.jp/dx_icon/iconst_00017.html

この記事や、この記事の添付資料を以下の関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

https://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kikaku_00000928.html

4. 流域のあらゆる関係者による多様な取組へ活かされるよう13の『流域治水プロジェクト』において、「グリーンインフラの推進」「流域治水の見える化」を行います。

関東地方整備局
河川部

関東地方整備局では、河川管理者に加え、都道府県、市町村等の関係者が一堂に会する16の流域治水協議会等を立ち上げ、関係機関が協働して13の流域治水プロジェクトを昨年3月に策定・公表しました。

河川整備の事業効果や関係者による代表的な取組状況を分かりやすく示す「流域治水の見える化」とともに、治水と環境の両立を図る取組として「グリーンインフラの推進」を、全ての流域治水プロジェクトに盛り込み、とりまとめました。

なお、各流域治水プロジェクトの概要、流域治水協議会等毎の対策事例などは、本文資料(PDF)別紙記載の事務所ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

この記事や、この記事の添付資料を以下の関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

https://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/river_00000614.html

5. ～関東地域におけるコウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりを目指して～ 「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本計画」を改定しました

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会
【事務局】

国土交通省 関東地方整備局
河川部 河川環境課

『関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会』は、関東地域において、多様な主体が協働・連携し、コウノトリ・トキを指標とした河川及び周辺地域における水辺環境の保全・再生方策の推進と併せて、コウノトリ・トキをシンボルとしたにぎわいのある地域振興・経済活性化方策に取り組み、広域連携モデルとしてのエコロジカル・ネットワークの形成によるコウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりの実現を目的として取り組みを進めています。

このたび、平成28年に策定した基本計画の2020年短期目標に関する達成状況の評価を踏まえて、新たに2030年中期目標に向けた取り組みプログラムを改定した基本計画を令和4年3月に策定しましたので、お知らせいたします。

基本計画本文につきましては、関東地方整備局のホームページに掲載しておりますので、併せてご覧下さい。

http://www.ktr.mlit.go.jp/river/chiiki/river_chiiki00000035.html

この記事や、この記事の添付資料を以下の関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

https://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/river_00000613.html

6. 「みんなで一緒にあらかわろう!」プロジェクト 『荒川下流GISオープンデータポータル』を開設 ～二次利用可能なデータを公開し、あらゆる関係者のDXを促進します～

荒川下流河川事務所

荒川下流河川事務所では、令和3年7月から荒川下流域に関するデータを「荒川3D河川管内図」で閲覧可能にしているところです。今後、あらゆる関係者のDXに向けて誰もがインターネットを通じて容易にデータを利用できるよう、オープンデータ化を推進する必要があります。このため、『荒川下流GISオープンデータポータル』を開設し、社会的・経済的にニーズの高い防災データ等を優先的に二次利用可能な形式で公開します。データは今後随時追加していく予定です。

<荒川下流GISオープンデータポータルの機能>

■ データダウンロード

- 1) データは二次利用ができるようGeoJSON形式、CSV形式等でダウンロードができます。
- 2) 現在以下のデータを公開しています。
 - (1) 距離標測量成果、(2) 河川管内図(荒川下流域)の名称ラベル、(3) 水位観測所位置、(4) 雨量観測所位置、(5) ライブカメラ位置・画像リンク、(6) R4年度重要水防箇所、(7) 河川環境基図データ

■ 地形モデルのダウンロード

荒川下流域の堤防等の地形の起伏を表現したデータ(地形モデル)をTIF形式、FBX形式でダウンロードできます。お手持ちのGISソフトウェアやゲームエンジン等のソフトウェアで読み込み、設計業務等に利用することができます。

■ 画像データのWEB API URLの公開

- 1) 空撮画像のような画像データはお手持ちのGISソフトウェアでWEB PI(Application Programming Interface)連携が図れるようURLを公開します。
- 2) 現在以下のデータを公開しています。
 - (1) 空撮画像(平常時平成31年4月撮影)
 - (2) 空撮画像(非常時令和元年10月撮影)
 - (3) 3D河川モデル(水深段彩図令和元年度測量)
 - (4) 3D河川モデル(段彩図令和元年度測量)
 - (5) 2D洪水浸水想定区域図(荒川下流域)(想定最大規模最大浸水深)
 - (6) 2D洪水浸水想定区域図(荒川下流域)(計画規模最大浸水深)
 - (7) 2D洪水浸水想定区域図(荒川流域)(想定最大規模浸水継続時間)

<URL><https://gis-opendata-arage.hub.arcgis.com/>

この記事や、この記事の添付資料を以下の関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

https://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/arage_00000314.html

◆◆国土交通本省の動き◆◆

1. 「スマートシティモデルプロジェクトからの知見集」の公開 ～スマートシティの実装に向けた実証事業に取り組む皆様へ～

「スマートシティ」の実装に向けて、国土交通省ではスマートシティモデルプロジェクトとして各地域の実証実験等の支援を実施しております。この度、本取組から得られた知見から、実証実験を実装に結びつける気付きとなるように、「スマートシティモデルプロジェクトからの知見集」をとりまとめました。

1. 背景

国土交通省では、令和元年度よりスマートシティモデルプロジェクトとして、各地域のスマートシティの実証実験等の支援を実施してきたところであり、この度、「スマートシティモデル事業等推進有識者委員会」（座長：石田東生筑波大学名誉教授）における議論等を踏まえ、本取組から得られた知見から、実証実験を実装に結びつけるために留意事項やスマートシティを進める上で重要としている推進体制、費用負担、市民参画について、知見集として、とりまとめました。

令和4年度に予定されているスマートシティ・ガイドブックの改定にも、本知見集の内容を反映していくことを予定しております。

2. 「スマートシティモデルプロジェクトからの知見集」の概要（別添）

第1部 実証実験から得られた知見

スマートシティモデルプロジェクトで実施した実証実験における成功・失敗体験等を踏まえた実証段階の計画・実証実施時に留意すべき事項を整理・とりまとめ

第2部 スマートシティ実現に向けた知見

スマートシティガイドブックにおいて重要としている推進体制、費用負担、市民参画について、スマートシティ先進地域における参考となる事例を整理・とりまとめ

※「スマートシティモデルプロジェクトからの知見集」及び有識者委員会の内容については、下記に掲載しております。

https://www.mlit.go.jp/toshi/tosiko/toshi_tosiko_tk_000063.html

※参考：「スマートシティ・ガイドブック」

https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/smartycity/index.html

この記事や、この記事の添付資料を以下の国土交通省ホームページでご覧いただけます。

https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi07_hh_000188.html

2. 「うんこドリル」とコラボして「うんこドリル 川の安全」を作成しました！ （国土交通省・河川財団×うんこドリル）

- ・安全に気をつけながらも、多くの子供たちに楽しく川で遊んでほしい！との思いを込めて、公益財団法人 河川財団、「うんこドリル」を発行する株式会社 文響社とコラボして、「うんこドリル 川の安全」を作成いたしました。
- ・川の事故にあわないで楽しく遊ぶために大切な知識を、うんこ先生と一緒に勉強しましょう！

《 背景 》

川の水難事故は毎年多発しており、水に関わる子どもの事故の約6割は川や湖でおこって

います。

そこで、多くの子どもたちに安全に楽しく川で遊んでもらうために、公益財団法人 河川財団およびシリーズ累計で950万部のうんこドリルとコラボし、「うんこドリル 川の安全」を作成いたしました。

《 「うんこドリル 川の安全」の概要 》

川の安全に関する知識をクイズ形式で学べる冊子とWEB アプリを制作いたしました。冊子は、全5問。WEB アプリは、川に関する問題が全20問の中から10問ランダムに出題されます。冊子およびWEB アプリにてそれぞれ異なるクイズを提供していますので、下記よりぜひお試しください。

冊子：<https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/pdf/unnkodoriru.pdf>

WEB アプリ：<https://play.unkogakuen.com/manabi/game/river/?rf=drill>

その他、水難事故防止や河川の安全に関する情報は以下参考資料をご覧ください。

(参考資料)

川の安全に関する普及啓発・学習ツール

安全に楽しく川や水辺で活動するために活用を図っていただき、水難事故の防止にお役立願います。

○リーフレット

■川遊び安全ノート「えんじょいりバー」(公益財団法人 河川財団 作成)

URL：http://www.kasen.or.jp/Portals/0/pdf_mizube/enjoyriver.pdf

■水辺の安全ハンドブック(公益財団法人 河川財団 作成)

URL：<http://www.kasen.or.jp/mizube/tabid129.html>

■水難事故防止に関するデータ「No More 水難事故」
(公益財団法人 河川財団 作成)

URL：<https://www.kasen.or.jp/mizube/tabid324.html>

■～MIZUBE ASOBI GUIDE～(水管理・国土保全局 河川環境課 作成)

URL：<http://www.mlit.go.jp/river/kankyo/pdf/mizubeasobiguide.pdf>

○水難事故防止動画

■小学校の児童向けRPG風動画「リバーアドベンチャー-川に魅せられし者たち-」
(水管理・国土保全局 河川環境課 作成)

URL：<http://www.mlit.go.jp/river/kankyo/index.html>

○学習用アプリ等

■水難事故防止に取り組む6団体が協働で制作「水辺の安全学習アプリ」
(公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団 公開)

URL (WEB アプリ)：<https://mizube-azen.jp/>

この記事や、この記事の添付資料を以下の国土交通省ホームページでご覧いただけます。

https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo04_hh_000177.html

3. ウォーカブルポータルサイトをオープンします！ ～居心地が良くあるきたくなるまちへ～！

多様な人々が集い、交流する「居心地が良く歩きたくなる」ウォーカブルなまちなかづくりに向けた取組が、全国各地域で進められています。

国土交通省では、取組のより一層の推進のため、まちが徐々に変遷していくイメージ

をイラストで表現しました（別紙参照）。また、制度や事例集、ガイドライン等のとりに加え、自治体担当者の声を紹介するページを作成しました。

ウォークブルにご関心のある方々をはじめ、まちづくりに携わる方など皆様是非ご覧ください！

■ウォークブルポータルサイト トップページ

<https://www.mlit.go.jp/toshi/walkable/index.html>

■ポータルサイトコンテンツ概要

制度や事例集・ガイドライン等の紹介、国内事例、担当者の声 等

この記事や、この記事の添付資料を以下の国土交通省ホームページでご覧いただけます。

https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi09_hh_000080.html

4. 多様なニーズに応える道路のガイドラインを策定しました！

国土交通省道路局では、社会・経済情勢の変化に応じてますます多様化する道路空間へのニーズへ応えるため、「多様なニーズに応える道路 ガイドライン」を策定しました。

■ガイドラインの名称

多様なニーズに応える道路 ガイドライン

■ガイドラインの概要

○近年、人口減少・超高齢化社会の到来、人中心の道路利活用ニーズ、道路に関連する新たな技術の登場、新たなモビリティの出現に伴い、多様化する道路空間へのニーズに対応するため、国土交通省道路局では、令和2年2月に「多様なニーズに応える道路空間」のあり方に関する検討会」を設置したところです。

○検討会において、多様なニーズを踏まえた地域内の各道路での機能分担や道路の柔軟な使い方を検討するとともに、これらの方策を全国各地で円滑かつ効果的に進めるためのポイントについて議論を重ねてきました。

○本ガイドラインは、主に道路の構築・再編を担当する道路管理者や建設コンサルタント等の関係者に対して、多様なニーズに応えるための検討内容や手順、有用な個別施策等、適用の際のメリットや留意点等を取りまとめたものであり、道路空間の構築・再編の場面で活用されることを期待しています。

◎本ガイドライン及び検討の経緯は以下にて公表しております。

『「多様なニーズに応える道路空間」のあり方に関する検討会』

https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/diverse_needs/

この記事や、この記事の添付資料を以下の国土交通省ホームページでご覧いただけます。

https://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001550.html

5. インフラ分野のDXアクションプランの策定

～令和4年を「挑戦の年」としてDXによる変革に果敢に取り組みます～

国土交通省では、i-Constructionの取組みを中核に、データとデジタル技術を活用して、業務そのものや組織、プロセス、文化や風土、働き方の変革に向けて、インフラ分野のDXの取組みを進めております。この度、インフラ分野のDXアクションプランをとりまとめましたので公表いたします。

今般、インフラ分野のデジタル・トランスフォーメーションの取組を省横断的に推進するため、「国土交通省インフラ分野のDX推進本部」（本部長：技監、昨年度7月より計5回）を開催し、個別施策の目指す姿と工程等を取りまとめたインフラ分野のDXアクションプランを策定しました。

国土交通省では、インフラ分野のDX推進に向けて、令和4年をDXによる変革に果敢に取り組む「挑戦の年」と位置付けており、省横断的に取組みを推進してまいります。

※インフラ分野のDXアクションプラン、およびインフラ分野のDX推進本部のこれまでの開催概要等は以下の国土交通省HPからご参照ください。

https://www.mlit.go.jp/tec/tec_tk_000073.html

この記事や、この記事の添付資料を以下の国土交通省ホームページでご覧いただけます。

https://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08_hh_000886.html

6. 日本の「みらい」を地図にしました！

～インフラの個別事業の完成時期等を地図上に可視化～

地方ブロックにおいて今後予定されているインフラ整備事業等※について、事業の概要、完成時期、事業効果等を地図上に可視化した「インフラみらいマップ」を作成しました。これにより、インフラ整備の将来の見通しをより分かりやすく提示し、民間投資の誘発等を通じた社会資本のストック効果の更なる発現を期待するものです。

※今回掲載している内容は、主に、令和3年8月に策定した地方ブロックにおける社会資本整備重点計画において掲載されているインフラ整備事業の事業概要、完成時期等の情報です。

※インフラみらいマップは、以下のホームページからご覧ください。

<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/inframiraimap/index.html>

推奨ブラウザ（Google Chrome, Microsoft Edge）

この記事や、この記事の添付資料を以下の国土交通省ホームページでご覧いただけます。

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo03_hh_000270.html